

◆令和3年度の学校評価

本年度の 重点目標	【重点目標1】安全で安心な教育環境を整備するとともに、幼児児童生徒一人一人の実態に応じた教育環境を設定し、適切かつ合理的な配慮のもと、専門性の高い指導及び支援を推進する。 【重点目標2】幼小中高が連携して一貫・継続した指導を実践する。教育課程を介して聾学校をはじめ、地域の学校や関係諸機関との連携を拡充し、キャリア教育、交流及び共同学習を推進する。 【重点目標3】校務の簡素化やシステム化を図るとともに、情報技術の導入による校務支援を試行することで業務改善を計画的に進める。		
項目(担当)	重 点 目 標	具 体 的 方 策	留 意 事 項
幼稚部	幼児一人一人が意欲的に当番活動をするような支援の充実を図る。	・幼児が当番活動を楽しみながら、効力感や達成感を味わえるような経験を増やすような支援を行う。 ・家庭で、お手伝いをした経験について、話し合う機会を積極的に作る。	・自発的に当番活動をするような環境構成をする。 ・家庭と連携を取りながら、幼児が自ら継続して、お手伝いをする機会を設けられるようにする。
小学部	少人数集団を生かし、授業のみではなく、児童の学校生活全般において、聴覚障害教育の専門性に満ちた指導、支援をする。	・聴覚障害教育や、指導支援の工夫を職員同士で学び合い、児童全員を教職員全員で指導する。 ・授業研究を通し、職員全員での授業づくりをする。 ・県内の他の聾学校との交流及び共同学習をする。	・部会前の5分間学習会など、無理なく継続できる取組をし、目の前の児童に生かせるタイムリーな内容をとり上げる。 ・指導支援方法の共通理解や児童の課題の情報共有を日頃からできる環境を作る。 ・年間指導計画に交流及び共同学習を位置づけ、計画的にできるようにする。
中学部	新しい学習指導要領を踏まえた授業力の向上を図る。	・観点別の評価規準を明確にし、ねらいを押さえた授業づくりをする。 ・他人の意見を踏まえて正しい日本語を使って自分の考えをまとめられるような機会を設定する。 ・学習した内容を活用して考える活動を取り入れる。	・評価規準表を作成し、評価の観点を明らかにする。 ・情報機器やワークシートなどを活用し、生徒の意見が視覚的に見えるような工夫をする。 ・教職員間で情報共有をし、教科間の連携を図っていく。
高等部	生徒の実態に応じた教育課程となるよう見直し、新しい学力観に即した支援を行う。	・生徒の希望する進路に応じて弾力的な学習を行う。 ・教育課程Bの学習や活動内容について実態に合うよう見直す。	・1年生の英語と数学において習熟度別学習を行い、適した学力を育成する。 ・2年生、3年生において類型別学習を行い、進路実現へ向けて必要な学力を付ける。 ・教育課程Bにおける合わせた指導について見直し、実態に合うよう変更、改善を試みる。
総務部	式典を、安全、安心に執り行う。 様々な情報機器の活用やシステム化を検討し、業務改善を進める。	・新型コロナウイルスの感染状況などを確認しながら、最適な方法で式典の計画、実施をする。 ・総務部員が業務を効率よく進められるような体制作りをする。	・新型コロナウイルスの感染状況や、暑さ、寒さ対策にも柔軟に対応しながら計画する。 ・他の分掌とも連携しながら検討、改善する。 ・主任や総務部職員が代わっても運営に困ることのないように、できるだけ業務をシステム化する。
教務部	学習評価の方法等を見直し、成績処理業務の効率化を図る。	・学期末の成績処理による多忙化を改善するために、各単元の学習完了時に評価を入力していくシステムを作成する。 ・通知表の作成回数や配付時期を検討する。	・評価規準に基づいた客観的な学習評価が行えるよう明確な評価規準表を作成する。 ・学習評価の改善は、部別、教育課程別に進める。 ・通知表の配付回数を変更する際には、児童生徒や保護者へ丁寧な説明を行う。

指導部	・防災教育の充実を図るとともに、危機管理体制の見直しを行う。 ・いじめや差別を防止するために開発的、予防的な指導に当たる。	・教材フォルダに防災教育の教材や資料を蓄積していく。 ・参集した人がBCPのファイルを見ることで業務を適切に継続できるよう改善する。 ・問題の早期発見のために学校生活アンケートを活用する。	・年間指導計画を作成する際に参考にしやすいよう、一覧を作成する。 ・物品の位置などは校内図と番号を対応させることで教職員同士が連携しやすいようにする。 ・アンケート結果を部で共有し、問題解決のために組織的な指導を行う。
保健体育部	引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に取り組む。 健康課題の解消に向けた教職員の資質と対応力の向上を図る。	・感染状況に合わせた対策を検討し、校内マニュアルの見直しを行う。 ・幼児児童生徒の心身の健康課題の把握に努め、課題解決に向けた講話や実技等の研修を実施する。	・ガイドラインの改定など新しい情報をグループウェアで随時周知していく。 ・各関係機関と連携を図り、講師の依頼や資料の提供をお願いすることで、より専門的な内容で実施できるようにする。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況に合わせた研修の方法を計画する。
進路指導部	生徒の実態に合った進路選択をできるように生徒、保護者、教職員に的確な情報提供をしていく。	・懇談、保護者向け進路勉強会、進路について考える会、現職研修などを通して、高等部だけでなく、他部にも早い段階から進路情報を提供する。	・生徒、保護者に個別に説明が必要な場合は、進路指導部から説明する機会を設ける。 ・新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、適宜オンラインや進路だよりで補うなど、柔軟に対応する。
研修・自立活動部	研修や校内研究の内容の充実を図り、聴覚障害教育の専門性を高める。	・聾学校教職員として専門的な指導ができるような研修を設定したり、情報を発信したりする。 ・校内研究での話合いや情報交換が授業改善や日々の指導に生かせるようにする。	・教職員のニーズに合わせた研修を実施する。 ・授業や家庭で活用できるように自立活動だよりの内容を充実させる。 ・教科・分野研が円滑に進められるように計画して推進していく。
情報部	GIGA スクール構想に向けてICT活用を推進し、授業や業務の改善に生かす。	・情報部員が率先してICT機器（児童生徒用タブレットPCなど）の有効な活用例を紹介し、学習指導や業務に生かせるように働きかける。 ・新ネットワークやICT機器の環境整備やシステムづくりを進める。	・参考資料に図や写真などを載せて図解化し、ポイントが速やかに伝わるように工夫する。 ・最新情報やセキュリティ面での留意点を、校内研修やグループウェア等を通して随時提供する。
教育支援部	地域の学校や関係諸機関との連携を密にし、校外及び校内の幼児児童生徒に対して専門性の高い教育環境を整備する。	・難聴学級担当者研修会等の研修会を継続して開催する。 ・専門性の高い聴覚障害教育を遂行するための課題を整理する。	・各校のニーズに合った支援を推進するとともに、本校の活動を発信し、積極的に地域の学校に関わっていくようにする。 ・専門性の高い教育環境整備のために、研修・自立活動部や各部と連携して支援にあたる。
寮務部	舎生の集団生活における社会性や道徳性を育み、基本的生活習慣の確立を図る。	・社会的マナーや望ましい学習習慣、人との関わり方などの具体例を分かりやすく提示して舎生に伝える。 ・舎生の実態に合わせてルールを決め、各部と連携を取りながら指導をする。	・舎生同士の関わりが増えるような場面設定をする。 ・舎生の実態を把握し、常に寄宿舎指導員と関係教職員間で共通理解を図った上で指導する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた教育環境を設定し、適切かつ合理的な配慮のもと、専門性の高い指導及び支援を推進する。 2 幼小中高が連携して一貫・継続した指導を実践する。教育課程を介して聾学校をはじめ、地域の学校や関係諸機関との連携を拡充し、キャリア教育、交流及び共同学習を推進する。	